

## ユーモア表出行動と表出相手との親密さの関連

宮戸 美樹

**Relationships between the Humor Expression and Close Friendship with the Partner**

MIYATO Miki

## 問題と目的

## 1. ユーモアと対人意識について

上野（1992）はユーモアについて従来のユーモア研究を整理し、ユーモアを表出する動機によって遊戯的ユーモア、支援的ユーモア、攻撃的ユーモアの3種に分類した。そして、それらのユーモアと対人意識の側面としての親和要求、思いやり行動、拒否回避要求、公的自意識との関連を検討した結果、遊戯的ユーモアや支援的ユーモアと親和要求との関連が、また遊戯的ユーモアと拒否回避要求や公的自意識との関連が明らかとなった（上野, 2003）。また、塚脇ら（2009a）は、ユーモア表出類型と人格特性との関連を検討した。その結果、攻撃性が高い者ほど攻撃的ユーモアを、自己受容度が高い者ほど自虐的ユーモアと遊戯的ユーモアを、愛他性が高い者ほど遊戯的ユーモアを表出することが明らかにされている。このように、ユーモアに対する好みや態度が、その個人の対人関係への意識と関連していることが示唆されている。

## 2. 対人コミュニケーションにおけるユーモア表出行動について

J.モリオール（1983, 1995 訳）は、社会的現象としてユーモアを位置づけ、その社会的性質として「伝染性」「凝集効果」「親しみに満ちた社会的身振り」「社会的な関わりへの影響」の4点を挙げている。その中で「親しみに満ちた社会的身振り」は対人コミュニケーションという視点からの論考であり、その中でモリオールは、「他者とユーモアを分かち合うことは受容的雰囲気醸成を促し、相手をリラックスさせるために新しい知人との会話をしばしば軽いジョークで始める」と述べている。牧野（1991）は、友人関係や知人関係が笑いにどのような影響を及ぼしているかについて検討し、送り手と受け手が親しい場合、及び、受け手同士が親しい場合は、そうでない場合に比べて笑いが発生することが検証されている。このように、相手を笑わせることや笑いを共有するというユーモア表出行動が、対人関係における潤滑油的な機能をもたらすことが示されている。

このように、ユーモアは対人関係においてモリオールの言う「親しみに満ちた社会的身振り」と位置づけられる一方で、ユーモアには上野（1992）が分類するように、相手を攻撃する意図から表出されるとされる、攻撃的ユーモアも存在している。このようなユーモアの攻撃的な側面は、日常場面における「からかい」などに代表され、いじめなどの問題に発展する危険性のある問題行動である。しかし一方で、親密な関係においては、からかいあえるほどに親しいと

いうことを当事者同士が確認するものとなり、快経験の共有をもたらすなど、関係促進的効果をもつという指摘もある（遠藤，2007）。葉山・櫻井（2008）は、友人との関係性によって冗談行動が異なるかを検討し、冗談行動が相手との関係により異なることが示唆されている。さらに、冗談関係の認知と冗談行動との因果関係を検証し、冗談関係の認知からの影響の変化によって、親友に対する攻撃的な冗談行動の割合が相対的に増加していくと推察されている。このように、対人コミュニケーション場面におけるユーモア表出行動は、相手との関係に影響を与えると同時に、相手との関係によってその形態や行動に影響を受けるものであると言える。

### 3. ユーモア表出行動と動機について

塚脇ら（2009b）は、従来のユーモア研究を概観した上で、ユーモア表出の動機について「関係構築動機」「不満伝達動機」「他者支援動機」「印象操作動機」「自己支援動機」の5つに整理されることを示した。さらに、ユーモアの3種の表出類型（塚脇他，2009a）間で、5つの表出動機強度に差があるか検討し、攻撃的ユーモアは他の2種のユーモアよりも不満伝達動機に基づいて使用されること、自虐的ユーモアと遊戯的ユーモアは攻撃的ユーモアよりも他者支援動機に基づいて使用されることが明らかとなっている。このようにユーモアの表出種類の違いによってユーモアの表出動機の強度に違いがあることが明らかとなった。さらに塚脇（2011）は、ユーモア表出の種類別に表出動機の構造を検討し、自虐的ユーモア表出と遊戯的ユーモア表出の動機の構造が比較的類似していること、攻撃的ユーモア表出においては、他の2つの類型とは異なり「不満伝達動機」が特徴として抽出されている。また、攻撃的ユーモアにのみ、自己支援動機が抽出されず、攻撃的ユーモア表出が、他の2つの種類のユーモア表出とは異なる特徴を有していると推測されている。

### 4. 本研究の目的

以上のように、従来の研究でユーモアの類型が整理され、対人コミュニケーション場面におけるユーモア表出行動の意味や、ユーモア表出行動の動機について検討が進んではいるが、「誰に表出するか」という、相手との関係性を考慮し、ユーモア表出行動と表意出意図との関連を検討した研究はまだ数少ない。「相手を笑わせるようなことを言う（する）」というユーモア表出行動は、対人場面において生起する行動であり、どのような意図でどのようなユーモアを表出するかということに対して、表出する相手との関係性、特に、相手との心理的な距離が強く影響すると推測される。しかし従来の研究では、表出行動や表出意図について、表出対象との関係性に注目して検討した研究はほとんどみられない。塚脇他（2009a, 2009b）において表出類型や表出動機を抽出する際にも、個人内の表出行動や表出動機を尋ねる項目が作成、使用されているが、対人場面は想定されていない。そこで本研究では「面白いことを言って相手を笑わせる」ことをユーモア表出行動と定義し、表出されるユーモアやその表出意図が相手との親

密性によって異なるか、ユーモア表出行動や表出意図と相手との関係性の関連について検討することを目的とする。まず対人場面の中でのユーモア表出意図を抽出するために予備的調査を行い、その後、相手との関係性とユーモア表出行動及び表出意図と関連を検討する。

## 1 > 予備的調査

### 目的

対人関係におけるユーモア表出行動に関して、その表出意図がどのように意識されているかを明らかにする。

### 方法

#### 1. 調査対象者と実施方法：

首都圏の4年制大学の大学生20名（男性10名、女性10名、平均年齢21.5歳）。自由記述形式の質問紙調査を個別配布・回収した。回答は中断しても良いことが伝えられた。実施時間は15分程度であった。

#### 2. 調査内容：

1)フェイスシート：性別、学年、年齢、所属する学部の記入を求めた。

2)ユーモア表出行動の意図：

ユーモア表出行動を行う意図を把握するために、「あなたが『同性』の人を笑わせるような冗談を言う時、それはどういった場面で、なぜそのような行動をとるのですか。自由にお書き下さい」と質問文を提示し、「親友」「友人」「知人」3者それぞれについて自由記述形式で回答を求めた。また、それぞれの相手について『異性』の場合についても同様に回答を求めた。

### 結果

#### 1. ユーモア表出行動の表出意図

「ユーモア表出行動を行う場面と目的を自由にお書き下さい」という質問に対して『親友』『友人』『知人』の全ての回答内容を対象に、心理学を専攻する者3名でKJ法(川喜多,1967)を用いて分類した。分類の結果、ユーモア表出行動の意図は「他者を支援する意図」「雰囲気进行操作する意図」「自己の印象进行操作する意図」「関係进行操作する意図」の4つに分類された。「他者を支援する意図」は『相手を励ますため』『相手を元気づけるため』などが、「雰囲気进行操作する意図」には『場を盛り上げるため』『楽しい雰囲気にするため』、「自己の印象进行操作する意図」には『自分に好印象をもってもらうため』『おもしろい人だと思われたいため』などの内容が分類された。また、「関係进行操作する意図」は『相手と仲良くなるため』『どのような人なのか知るため』『相手の情報を得るため』などの内容が分類された。

## 2. 対象の性別によるユーモア表出行動の意図の違い

同性の対象か異性の対象か、相手の性別によってユーモア表出行動の意図が異なるかを明らかにするため、『親友』『友人』『知人』それぞれについて、同性の場合と異性の場合の表出意図を比較したところ、20名のうち18名が「同性に対しても異性に対しても表出意図は同じ」と回答した。男性回答者のうち2名は、異性の友人に対して「もてるため」「おもしろいとアピールするため」と回答した。

## 3. 親密性によるユーモア表出行動の意図の違い

『親友』『友人』『知人』という対象との親密性の違いによって、ユーモア表出行動の意図が違うかを明らかにするために、それぞれの対象ごとに4つの表出意図について出現率を比較した(図1)。その結果、『親友』では「他者を支援する意図」が61.9%、「雰囲気进行操作する意図」が23.8%、「自己の印象进行操作する意図」が14.3%、「関係进行操作する意図」が0%であった。『友人』では「他者を支援する意図」が9.5%、「雰囲気进行操作する意図」が57.1%、「自己の印象进行操作する意図」が19.1%、「関係进行操作する意図」が14.3%であった。『知人』では「他者を支援する意図」が0%、「雰囲気进行操作する意図」が23.1%、「自己の印象进行操作する意図」が46.2%、「関係进行操作する意図」が30.7%であった。

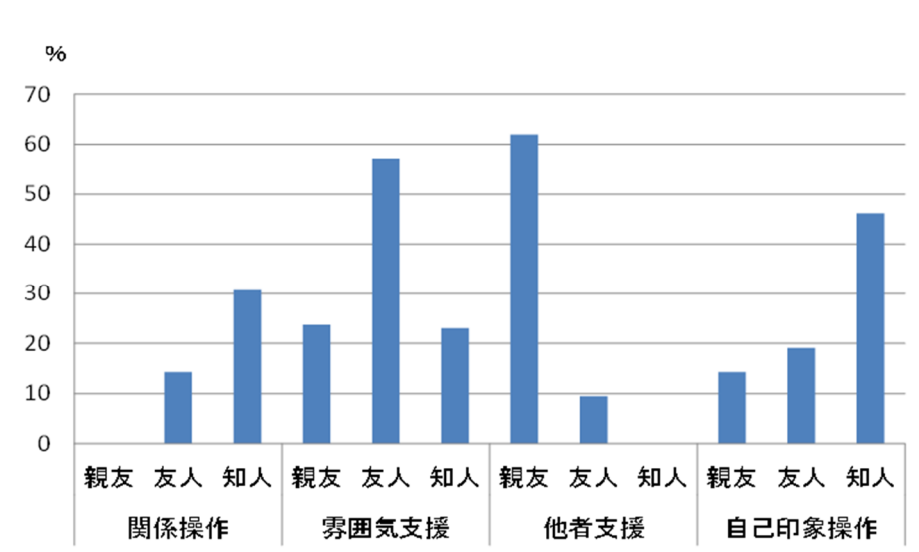


図1. ユーモア表出意図に関する対象者による抽出率の比較

## 考察

ユーモア表出行動の表出意図は、「他者を支援する意図」「雰囲気进行操作する意図」「自己の印象进行操作する意図」「関係进行操作する意図」の4つに分類された。その中の「雰囲気进行操作する意図」は、『親友』『友人』『知人』すべての対象に対して20%以上の選択率が示され、その場の雰囲気を良くするという意図は、どのような相手に対しても意識されていることが明らかになった。また、相手との関係性による違いを検討した結果、親友に対しては「他者を支援する

意図」が、友人に対しては「雰囲気进行操作する意図」が、知人に対しては「自己の印象进行操作する意図」「関係进行操作する意図」が、それぞれ表出意図として強く意識されていた。このことから、対象との親密性によってユーモアの表出意図が異なることが示唆された。

## 2 > 本調査

### 目的

対人関係におけるユーモア表出行動や表出意図が、相手との関係の親密さによって違いがみられるか検討する。

### 方法

#### 1. 調査対象者と実施方法：

首都圏の4年制大学の大学生 273 名（男性 142 名、女性 131 名、平均年齢 20.1 歳）を分析の対象とした。調査は大学の講義内で集団実施し、回答は無記名により行った。回答は中断しても良いことが伝えられた。所要時間は 15 分程度であった。

#### 2. 調査内容：

1) フェイスシート：性別、学年、年齢の記入を求めた。

2) ユーモア表出行動尺度：3種のユーモアそれぞれの表出行動を測定するために、攻撃的ユーモア・遊戯的ユーモア志向尺度（上野，1992）、支援的ユーモア志向尺度（宮戸・上野，1996）を、それぞれのユーモアを表出する行動を測定する項目に変更して使用した。対象による表出行動の違いを測定するため、①親友②友人③知人を表出対象として挙げ、対象者ごとに「相手を笑わせるために、あなたはどのようなふるまいをしますか。以下の項目それぞれについて、あなたがその相手を笑わせるためにとる行動に最も当てはまるもの1つに○をつけて下さい」と教示文を提示し、「1. 全く当てはまらない」から「5. とてもあてはまる」までの5件法で回答を求めた。

3) ユーモア表出意図尺度：ユーモアを表出する意図について明らかにするために、「相手を笑わせる理由」について自由記述で尋ねた予備調査の結果から、4因子を想定して作成した候補項目 20 項目を作成した。対象による表出意図の違いを測定するため、①親友②友人③知人を対象として挙げ、対象者ごとに「あなたが相手を笑わせる理由はなんですか。笑わせる理由について、以下の項目それぞれについて最もあてはまるもの1つに○をつけて下さい」と教示文を提示し、「1. 全くあてはまらない」から「5. とてもあてはまる」までの5件法で回答を求めた。

### 結果

## 1. ユーモア表出行動尺度について

各ユーモア表出行動項目について対象ごとに主成分分析を行い、全ての対象の分析において負荷量が.30以下を示した項目を除外して再度分析を行った。その結果、攻撃的ユーモア表出行動尺度の第一主成分への寄与率は、親友が51.9%、友人が45.7%、知人が55.4%であった。また、 $\alpha$ 係数は親友が.62、友人が.61、知人が.72であった。遊戯的ユーモア表出行動尺度の第一主成分への寄与率は、親友が41.3%、友人が42.7%、知人が46.7%であり、 $\alpha$ 係数は親友が.69、友人が.72、知人が.85であった。支援的ユーモア表出行動尺度の第一主成分への寄与率は、親友が42.6%、友人が43.1%、知人が50.1%であり、 $\alpha$ 係数は親友が.80、友人が.80、知人が.85であった。以上の結果から、攻撃的ユーモア表出行動尺度7項目、遊戯的ユーモア表出行動尺度6項目、支援的ユーモア表出行動尺度8項目を作成した。項目内容を表1に示す。

表1. ユーモア表出行動尺度

### 攻撃的ユーモア

1. 笑いをとるために多少毒をはく
2. 皮肉を言って楽しむ
3. 過激な冗談を言う
4. ブラックユーモアを使う
5. 笑いをとるためにきついことを言うことはない \*
6. 変わっている知人をネタにする
7. まじめな話をちやかす

### 遊戯的ユーモア

1. 単純で分かりやすいユーモアを言う
2. 相手を楽しませようとよく笑わせる
3. 人のモノマネをして笑いをとる
4. ダジャレを言う
5. 人間くささのある笑い話や、ユーモアを言う
6. 相手と一緒に笑いたいと思う

### 支援的ユーモア

1. 相手を笑わせて励まそうとする
2. あわてたりさわいだりする滑稽な自分をネタに笑いをとる
3. 相手が誰かと喧嘩を始めそうな時に、冗談を言って仲をとりもつ
4. 相手の気持ちを救うようなユーモアを言う
5. 相手に嫌なことがあった時に笑い飛ばすことが出来るように関わる
6. 相手の気がめいている時にユーモアで励ます
7. ちょっと寂しそうにしていると冗談を言って笑わせる
8. 相手をなぐさめるために、自分の失敗をおもしろおかしく語る

\*逆転項目

## 2. ユーモア表出意図尺度について

表出対象ごとに因子分析（主因子法・Promax回転）を繰り返し、因子負荷量が.35以上を示した4因子解（合計16項目）を採用した。親友、友人、知人の因子構造はすべて同じとなっ

た。項目内容を表2に示す。

第1因子は「相手との距離感を縮めるため」「相手との関係をよくするため」といった相手との関係性の変化を意図する5項目から構成されており『関係操作』と命名した。第2因子は「空気を盛り上げるため」「その場を楽しくするため」「その場の雰囲気をよくするため」といった場の空気感や雰囲気を良くしようと意図する4項目で、『雰囲気支援』と命名した。第3因子は「相手を元気づけるため」「相手を励ますため」「相手をなぐさめるため」など、他者を支援することを意図している4項目から構成されており『他者支援』と命名した。第4因子は「自分に好印象をもってもらうため」「自分のことをおもしろいと思ってもらうため」など、自己の印象操作が意図された3項目で『自己印象操作』と命名した。逆転項目については処理を行い、下位因子ごとに項目の得点を合計し得点化した。それぞれの得点が高いほど、それぞれの表出意図が強いことを意味する。

表2. ユーモア表出意図尺度

---

関係操作

1. 相手に親しみをもってもらうため
2. 相手と仲良くなるため
3. 相手との距離感を縮めるため
4. 相手との関係をよくするため
5. 相手と親密感を感じるため

雰囲気支援

1. 空気を良くするため
2. その場を楽しくするため
3. 空気を盛り上げるため
4. その場の雰囲気を良くするため

他者支援

1. 相手を励ますため
2. 相手をなぐさめるため
3. 相手を元気づけるため
4. 相手を明るくするため

自己印象操作

1. 自分のことをおもしろいと思っ欲しいから
  2. 相手にすごいと思われたいから
  3. 自分に好印象をもってもらうため
- 

### 3. ユーモア表出行動の性差について

ユーモア表出行動について、性別による差が見られるかを明らかにするために、ユーモア表出行動尺度得点について、対象ごとに性差による母平均値の差の検定を行った(表3)。その結果、親友と知人に対する攻撃的ユーモア表出行動得点が有意水準1%で、友人に対する攻撃的ユーモア表出行動得点が有意水準5%で、男性の方が女性よりも高かった。また、知人に対する遊戯的ユーモア表出行動得点が有意水準10%で男性の方が女性よりも高い傾向がみられた。支援的ユーモアについて

は、すべての対象について男女間で有意差はみられなかった。

男女による表出行動に違いが見られたのは攻撃的ユーモアであった。攻撃的ユーモアについては、親友・友人・知人それぞれの対象に対して、女性よりも男性の方が多く表出していることが明らかとなった。遊技的ユーモアについては、知人という関係性の遠い対象に対してのみ、男性の方が女性よりも表出していることが明らかとなった。また、支援的ユーモアについては、すべての表出対象においてその表出行動に男女差は見られなかった。

表3. ユーモア表出行動についての性差の検討

ユーモアの種別	対象	性別	n	MEAN	SD	
支援的ユーモア	親友	男性	140	27.29	4.97	df=269
		女性	131	26.86	5.31	t=.357
	友人	男性	141	26.06	5.09	df=269
		女性	130	26.48	5.26	t=-.669
	知人	男性	141	23.04	6.25	df=269
		女性	130	22.52	5.65	t=.726
遊技的ユーモア	親友	男性	140	20.37	4.06	df=269
		女性	131	19.66	3.80	t=1.496
	友人	男性	141	19.89	4.26	df=269
		女性	130	19.07	3.96	t=1.632
	知人	男性	141	17.65	4.53	df=269
		女性	130	16.62	4.30	t=1.903 †
攻撃的ユーモア	親友	男性	140	22.64	4.59	df=269
		女性	131	20.51	4.23	t=3.969***
	友人	男性	141	22.33	5.34	df=269
		女性	130	20.25	4.84	t=3.362**
	知人	男性	140	19.29	4.75	df=268
		女性	130	17.13	4.88	t=3.679***

† P<.10, \*\*P<.01, \*\*\*P<.001

#### 4. ユーモア表出意図の性差について

ユーモア表出意図について、性別による差が見られるかを明らかにするために、ユーモア表出意図尺度得点について、対象ごとに性差による母平均値の差の検定を行った(表4)。その結果、友人に対する「関係操作」「雰囲気支援」「他者支援」意図得点について、女性の方が男性よりも有意水準5%で高かった。また、「他者支援」意図得点については、親友に対しては有意水準1%で、また知人に対しては5%水準で女性の方が男性よりも高かった。一方、「自己印象操作」意図については、すべての対象において男女間で有意差はみられなかった。

以上の結果から、ユーモア表出について、女性の方が男性よりも「他者支援」意図がどの対象に対しても高いことが明らかとなった。また、友人に対する「関係操作」と「雰囲気支援」意図についても、女性の方が男性よりも高いことが示された。



表4. ユーモア表出意図についての性差の検討

表出意図種別	対象	性別	n	MEAN	SD	
関係操作	親友	男性	139	18.29	4.02	df=268
		女性	131	18.54	4.06	t=-.517
	友人	男性	141	18.34	3.68	df=269
		女性	130	19.34	3.50	t=-2.283*
	知人	男性	141	18.05	4.13	df=269
		女性	130	18.77	4.09	t=-1.439
雰囲気支援	親友	男性	139	15.83	3.09	df=268
		女性	131	16.45	2.24	t=-1.865 †
	友人	男性	141	15.70	2.83	df=259.780
		女性	130	16.48	2.15	t=-2.576*
	知人	男性	141	14.55	3.71	df=269
		女性	130	15.35	3.36	t=-1.844 †
他者支援	親友	男性	139	14.48	3.31	df=268
		女性	131	15.56	2.62	t=-2.966**
	友人	男性	141	14.06	3.16	df=269
		女性	130	14.92	3.08	t=-2.244*
	知人	男性	141	12.53	3.66	df=269
		女性	130	13.43	3.55	t=-2.049*
自己印象操作	親友	男性	139	9.02	2.66	df=268
		女性	131	8.60	2.53	t=1.321
	友人	男性	141	9.46	2.75	df=269
		女性	130	9.09	2.42	t=1.170
	知人	男性	141	9.64	2.78	df=269
		女性	130	9.25	2.60	t=1.174

† P&lt;.10, \*P&lt;.05, \*\*P&lt;.01,

## 5. 表出対象別にみたユーモア表出行動について

ユーモア表出行動の表出対象による違いを検討するために、3種のユーモア表出行動尺度について①親友②友人③知人の3対象を被験者内変数とした分散分析を性別ごとに行った。

男性においては、遊戯的ユーモアと攻撃的ユーモアについて、その表出行動得点が知人よりも親友と友人の方が有意水準1%で高かった。支援的ユーモアについては、親友が友人よりも有意水準5%で、知人よりも有意水準1%で、友人が知人よりも有意水準1%で得点が高かった(表5)。

表5. 表出対象者別にみた表出行動得点の平均値の差の検定(被験者内検定・男性)

ユーモアの種別	対象	n	MEAN	SD	
支援的ユーモア	親友	139	27.08	4.98	F=36.16***
	友人	139	26.10	5.12	df=1.564
	知人	139	23.16	6.20	知人<親友、友人***、友人<親友*
遊戯的ユーモア	親友	139	20.38	4.07	F=39.35***
	友人	139	19.96	4.24	df=1.509
	知人	139	17.69	4.49	知人<親友、友人***
攻撃的ユーモア	親友	138	22.57	4.58	F=30.21***
	友人	138	22.27	5.34	df=2,274
	知人	138	19.36	4.74	知人<親友、友人***

† P&lt;.10, \*\*P&lt;.01, \*\*\*P&lt;.001

一方、女性においては、すべてのユーモアについて、知人よりも親友や友人の方が有意水準1%で得点が高かった(表6)。

表6. 表出対象者別にみた表出行動得点の平均値の差の検定(被検者内検定・女性)

ユーモアの種別	対象	n	MEAN	SD	
支援的ユーモア	親友	130	26.81	5.30	$F=47.46***$
	友人	130	26.48	5.26	$df=1.645$
	知人	130	22.52	5.65	知人<親友、友人***
遊戯的ユーモア	親友	130	19.62	3.78	$F=48.20***$
	友人	130	19.07	3.96	$df=1.602$
	知人	130	16.62	4.30	知人<親友、友人***
攻撃的ユーモア	親友	130	20.55	4.22	$F=38.14***$
	友人	130	20.25	4.84	$df=1.834$
	知人	130	17.13	4.88	知人<親友、友人***

† $P<.10$ , \*\* $P<.01$ , \*\*\* $P<.001$ 

以上のことから、男性においても女性においても、知人に対しては親友や友人に対してよりもユーモア表出されにくいことが明らかとなった。また、男性においては、支援的ユーモアについて親友と友人、友人と知人という関係の違いによっても表出行動に差が見られることが明らかとなった。

## 6. 表出対象別にみたユーモア表出意図について

ユーモア表出意図の表出対象による違いを検討するために、3種のユーモア表出意図尺度について①親友②友人③知人の3対象を被験者内変数とした分散分析を性別ごとに行った。

男性については、「雰囲気支援」「他者支援」「自己印象操作」意図得点について有意差が見られた。多重比較の結果、「雰囲気支援」「他者支援」意図得点は、知人よりも親友と友人の方が有意水準1%で高く、「自己印象操作」意図得点は、親友の方が友人と知人よりも有意水準5%で低かった。「関係操作」意図については、対象による得点の差は見られなかった(表7)。

表7. 表出対象者別にみた表出意図得点の平均値の差の検定(被検者内検定・男性)

表出意図	対象	n	MEAN	SD	
関係操作	親友	139	18.29	4.02	$F=.290$ n.s.
	友人	139	18.33	3.70	$df=1.570$
	知人	139	18.09	4.14	
雰囲気支援	親友	139	15.83	3.09	$F=12.01***$
	友人	139	15.71	2.84	$df=1.704$
	知人	139	14.59	3.71	知人<親友、友人***
他者支援	親友	139	14.48	3.31	$F=22.79***$
	友人	139	14.09	3.17	$df=1.570$
	知人	139	12.58	3.67	知人<親友、友人***
自己印象操作	親友	139	9.02	2.66	$F=5.12*$
	友人	139	9.47	2.76	$df=1.676$
	知人	139	9.68	2.77	親友<友人、知人*

† $P<.10$ , \*\* $P<.01$ , \*\*\* $P<.001$ 

一方、女性については、「雰囲気支援」「他者支援」「自己印象操作」意図得点について有意水準1%で有意差が見られ、「関係操作」意図得点については有意水準10%で有意差傾向がみられた。多重比較の結果、「雰囲気支援」意図得点については、知人は親友と友人よりも有意水準1%で得点が低く、「自己印象操作」意図得点は親友の方が友人と知人よりも有意水準1%で得点が低かった。「他者支援」意図得点については、親友は友人と知人よりも有意水準1%で、友人は知人よりも有意水準1%でそれぞれ得点が高かった。有意差傾向が見られた「関係操作」意図得点については、有意水

準5%で親友の方が友人よりも得点が低かった(表8)。

表8. 表出対象者別にみた表出意図得点の平均値の差の検定(被検者内検定・女性)

表出意図	対象	n	MEAN	SD	
関係操作	親友	130	18.62	3.99	$F=2.751$ † $df=1.795$ 親友<友人*
	友人	130	19.34	3.50	
	知人	130	18.77	4.09	
雰囲気支援	親友	130	16.49	2.20	$F=14.21$ *** $df=1.442$ 知人<親友、友人***
	友人	130	16.48	2.15	
	知人	130	15.35	3.36	
他者支援	親友	130	15.55	2.62	$F=35.49$ *** $df=1.735$ 知人<友人、親友***、友人<親友**
	友人	130	14.92	3.08	
	知人	130	13.43	3.55	
自己印象操作	親友	130	8.62	2.53	$F=5.51$ ** $df=1.758$ 親友<友人、知人*
	友人	130	9.09	2.42	
	知人	130	9.25	2.60	

† $P<.10$ , \*\* $P<.01$ , \*\*\* $P<.001$

## 考察

### 1. ユーモア表出行動と表出意図における性差について

表出行動については、どのような相手との関係性においても男性の方が攻撃的ユーモアを表出していた。攻撃的ユーモアは、時に相手を傷つける危険性があり、女性の場合は男性に比べて「相手を笑わせる手段」としてはあまり選択されないと考えられる。また、知人という親密性が低い相手に対しても、女性は男性ほど遊戯的ユーモアを表出しないことが示され、対人関係において男性の方が女性よりも、ユーモアをコミュニケーションの手段として用いやすいことが示された。これは、男性同士の関係において、遠藤(2007)が言う「親密な関係においては、からかいあえるほど親しいということ当事者同士が確認するものとなり、快経験の共有をもたらす」という要素が関連しているとも考えられる。

表出意図については、友人に対する「関係操作」「雰囲気支援」意図が、男性よりも女性の方が強く意識されていることが明らかとなり、「他者支援」意図については、すべての対象に対して女性の方が強く意識されていた。以上のことから、女性の方が、ある程度の親しさがある相手に対して、相手との心理的距離感の調整やその場の雰囲気を良くするといった関係性の調整や、相手を励ますためという表出意図が強いことが明らかとなった。女性は、男性よりもユーモアのもつ『対人関係の潤滑油』(牧野, 1991)機能を対人関係においては意識していると推察される。また、「他者支援」意図については、どの対象に対しても女性の方が強く意識されており、女性の方がユーモア表出行動の背後に、相手を励ますという意図が強いことが示唆された。

### 2. 相手との親密性と表出するユーモアの類型について

男性においては、友人や親友に比べて知人に対しては、遊戯的ユーモアと攻撃的ユーモアを表出していないことが明らかとなった。支援的ユーモアについては、上記の違いに加えて、友人よりも親友に、知人よりも友人に支援的ユーモアを表出していることが明らかとなり、より親密性が高い相手に対し

て支援的ユーモアを表出しやすいという、関係性による細かい相違が示された。男性においては、親友に対しては知人や友人よりも支援的ユーモアが表出されており、より親密な関係性においては、落ち込んでいたり悩んでいたりする相手を励ますために、「笑わせる」という手段がとられやすいことが示された。落ち込んでいたり悩んでいる相手を「笑わせる」という行為は、「ふざけている」「バカにしている」などの誤解を生む危険性を孕んでいる。従って、より親密な関係である方が誤解を生む危険性は軽減し「励ます」という意図が相手に伝わりやすく、また、「共に笑う」という行為が、相手への支援となりうるであろう。

一方、女性においては、すべてのユーモアの類型について、友人や親友に対してよりも知人に対しては、すべての種類のユーモアを表出していないことが明らかとなった。性別に関係なく、知人という親密性の乏しい心理的距離のある関係性においては、ユーモアというコミュニケーションツールを用いにくいことが示唆された。

### 3. 相手との親密性とユーモア表出意図について

相手との親密性とユーモア表出意図については、男女ともに親友という親密な関係の相手には、「自己印象操作」意図が低いことが示された。すでに親しく相手のことを理解している関係性においては、自分のイメージをよくするといった「自己印象操作」は必要ではないためであろう。一方で、知人という親密性の低い相手との関係においては、相手に自分のことをよく思ってもらいたいという意図が強いとも解釈できることから、親密性の低い相手に対しては『親しみに満ちた社会的身振り』(J.モリオール,1983,1995)や、牧野(1991)のいうユーモアの『対人関係の潤滑油』としての機能が意識されていると推察される。

「雰囲気支援」や「他者支援」意図については、親友や友人に比べて知人に対しては表出意図として意識されていないことが明らかとなった。また、女性においては、「他者支援」意図は、友人よりも親友に、知人よりも友人に意図されており、関係性の相違に影響を受けやすいことが明らかとなった。知人とのコミュニケーションにおいては、ある程度の心理的距離を保ったコミュニケーションが展開されると思われ、場を盛り上げようという「雰囲気支援」意図は、親しい関係である友人や親友に比べて少ないと推測される。「他者支援」意図については、特に女性においてはより親しい関係性の相手に対して意図されており、親密である相手と笑いを共有することや相手を笑わせることが、励ましなどの心理的支援であることが受け手とも共通認識されていると推察される。

以上の本研究の結果から、親密さという相手との関係性の違いによって、ユーモアコミュニケーションの類型やその表出意図が異なっていることが示唆された。

### 今後の課題

今後の課題として、第1に、表出されるユーモアの類型と表出意図と相手との関係性について、表出意図と表出されるユーモアの類型という関係を含めて検討していく必要がある。また、本研究では良好

な関係性を前提として「相手を笑わせる」行動や意図について尋ねたため、攻撃的ユーモアについてその行動や表出意図について明らかにしきれていない。従って、関係性における攻撃的意図について抽出し、検討する必要がある。

#### 文献

遠藤由美 2007 役割と社会的スキルがからかい認知に及ぼす影響 関西大学「社会学部紀要」,38, 3, 119-131.

葉山大地・櫻井茂雄 2008 友人に対する冗談関係の認知が冗談行動へ及ぼす影響 心理学研究, 79, 1, 18-26.

川喜田二郎 1967 発想法—創造性開発のために 中公新書

牧野圭子 1991 笑いに及ぼす友人・知人関係の効果 日本心理学会第 55 回大会発表論文集,710

モリオール.J. 森下伸也(訳) 1995 ユーモア社会を求めて 笑いの人間学 新曜社

塚脇涼太・樋口匡貴・深田博己 2009a ユーモア表出と自己受容、攻撃性、愛他性との関係 心理学研究, 80, 4, 339-344.

塚脇涼太・越良子・樋口匡貴・深田博己 2009b なぜ人はユーモアを感じさせる言動をとるのか?—ユーモア表出動機の検討— 心理学研究, 80, 5, 397-404.

塚脇涼太 2011 ユーモア表出の種類ごとにみた動機の構造 広島大学心理学研究, 11, 49-56.

上野行良 1992 ユーモア現象に関する諸研究とユーモアの分類化について 社会心理学研究, 7, 112-120.

上野行良 2003 ユーモアの心理学—人間関係とパーソナリティー—サイエンス社

\*この研究は、阿孫聖翔さんの平成 24 年度横浜国立大学卒業論文のデータを再分析・検討したものである。